

情報連絡員報告総括表(平成29年2月分)

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>(臨時・パートを含む)</small>			業界景況								
	増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化						
製 造 業	食 料 品		4			4			1	3				4			3	1		4				4				3	1				
	織 維 工 業		2	1			3				3				3			3			2	1			3			2	1				
	木 材 ・ 木 製 品			1			1					1				1		1				1			1				1				
	紙 ・ 紙 加 工 品			2			2				2				2			2				2			1	1		1	1				
	印 刷		1				1				1				1			1			1			1				1					
	化 学 ・ ゴ ム																																
	窯 業 ・ 土 石 製 品		1	2			3				3				2	1		3			2	1			3			2	1				
	鉄 鋼 ・ 金 属	1					1				1			1				1			1			1				1					
	一 般 機 器	1	1	1		1	1	1			2	1		1				2			2	1		1			2		3				
	電 気 機 器	1					1				1				1			1			1			1			1						
	輸 送 機 器	1					1				1				1			1			1			1				1					
そ の 他																																	
小 計	4	9	7	1	18	1	1	18	1		18	2	2	11	7		19	1	3	11	6	2	15	3	2	13	5						
非 製 造 業	卸 売 業	1		1		1	1	1		2			1	1			2		X				1	1		1	1						
	小 売 業	1	3	2		6		2	4		5	1		1	5		2	4							5	1		2	4				
	商 店 街		1			1			1		1			1			1									1			1				
	サ ー ビ ス 業	1	3	1	X			1	4		1	4		1	2	2		4				1					5			5			
	建 設 業	2	2						4		1	3		1	3		1	3					1	3					4			4	
	運 輸 業	1							1			1		1			1						1						1			1	
	そ の 他		1									1		1				1						1					1			1	
小 計	6	10	4					8	1	4	14	2	2	17	1	3	8	9	1	14	5				18	2	1	14	5				
合 計	10	19	11	1				26	2	5	32	3	2	35	3	5	19	16	1	33	6	3	11	6	2	33	5	3	27	10			

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(平成28年2月～平成29年2月)

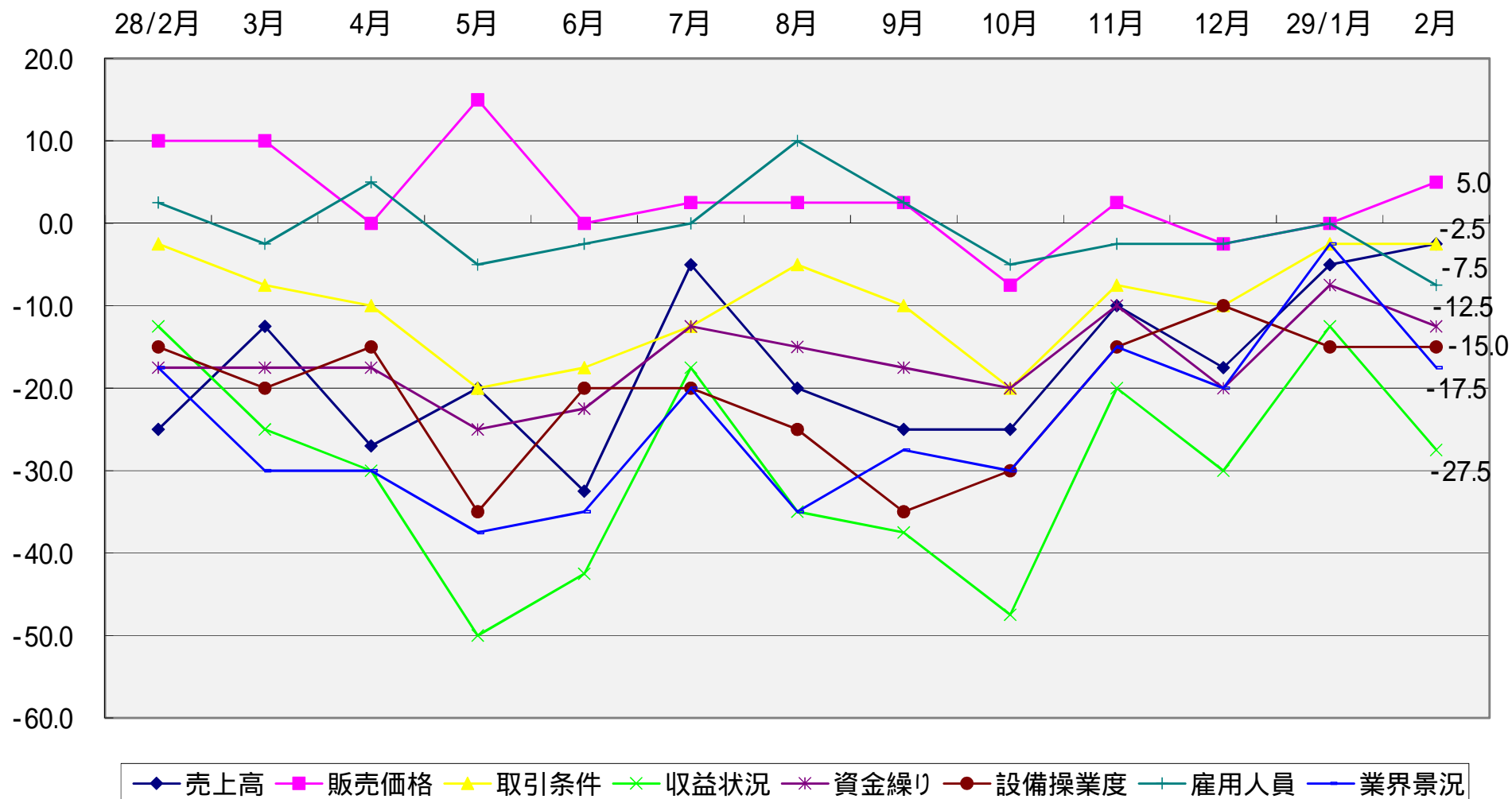
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	28/2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29/1月	2月	増減
売上高	-25.0	-12.5	-27.0	-20.0	-32.5	-5.0	-20.0	-25.0	-25.0	-10.0	-17.5	-5.0	-2.5	2.5
販売価格	10.0	10.0	0.0	15.0	0.0	2.5	2.5	2.5	-7.5	2.5	-2.5	0.0	5.0	5.0
取引条件	-2.5	-7.5	-10.0	-20.0	-17.5	-12.5	-5.0	-10.0	-20.0	-7.5	-10.0	-2.5	-2.5	0.0
収益状況	-12.5	-25.0	-30.0	-50.0	-42.5	-17.5	-35.0	-37.5	-47.5	-20.0	-30.0	-12.5	-27.5	-15.0
資金繰り	-17.5	-17.5	-17.5	-25.0	-22.5	-12.5	-15.0	-17.5	-20.0	-10.0	-20.0	-7.5	-12.5	-5.0
設備操業度	-15.0	-20.0	-15.0	-35.0	-20.0	-20.0	-25.0	-35.0	-30.0	-15.0	-10.0	-15.0	-15.0	0.0
雇用人員	2.5	-2.5	5.0	-5.0	-2.5	0.0	10.0	2.5	-5.0	-2.5	-2.5	0.0	-7.5	-7.5
業界景況	-17.5	-30.0	-30.0	-37.5	-35.0	-20.0	-35.0	-27.5	-30.0	-15.0	-20.0	-2.5	-17.5	-15.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成29年2月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	食料品	漬物	原料原産地表示義務拡大に対応するため、業界全体レベルでの検討が進められている。漬物類の生産量は、全国的にも横ばいで推移しているが、キムチ類が18年連続トップを占め、2位は浅漬類、次いで、塩漬類であった。青果野菜類の高騰による代替需要としての健闘がみられるなどの漬物類の底力が認められた。
		醤油味噌	4月18日の三重県民の日の前の週末、4月14日(金)～16日(日)に、イオン東員店での三重フェアにて、「三重しょうゆ街道」(イベント)を出展し、県内の街道沿いにある醤油蔵の紹介と醤油を通じた地域の食文化とのつながりを紹介するコーナーを作る。それぞれの醤油の利き味のために豆腐での醤油の味比べ、醤油を使った焼うどんや料理の試食、組合員の醤油等展示説明販売やパンフレットの配布などを行う。
		豆腐	全国豆腐連合会において、「豆腐公正競争規約」2018年設定、告示を目指して公正取引協議会を設置し、その説明会が東京、京都の2会場で開催された。
		製麺	去年は、サミットの開催が決まり、新聞・雑誌・テレビ等いろいろな形で伊勢うどんが取り上げられ、好調な日が続いた。そんな中で、今後の取り組みにつなげていけるように対策を打っていく。
	繊維工業	テント	組合として、「お伊勢さん菓子博2017」の対応に追われている。
	紙・紙加工品	紙器段ボール	特に大きな動きもなく、売上・粗利とも、昨年対比で若干のマイナスである。
		古紙	2月期の仕入れ量は、前年比：段ボール・約95±4%、新聞、チラシ・約92%±5%、雑誌、雑紙、その他・合わせて約93±5%の中での推移である。2・8と言われ、経済統計が下落する月で、今年は大雪に見舞われ、特に四日市・鈴鹿は1週間以上にわたり影響が出たように思う。1月に中部圏内の老舗大手古紙問屋が、上場企業の紙流通会社の100%子会社になることが決まった。様々な理由で寡占化が進むようになると思われる。巷では、事件や事故・暗殺事件等も短い時間で伝わり、中には真実が伝わらない事例もあるのかもしれない。加速度的に進む少子高齢化と人口減少は現実で、更に消費活動の変化による紙の消費減も踏まえて、喜んでいただける仕事の創造をしようと考えている。古紙等の持去り行為も以前に増して多発しており、持去られた古紙や資源物は流通している。目的に応じた安心・安全で健全なりサイクル活動を取り戻し、実施する経営環境が無くなりつつあるように思う。
	印刷	印刷	例年通り年度末を迎え活気が出てきた。しかしながら、官公庁等の入札は、相変わらず厳しい競争が続いている。また、3月末までに納品の案件が非常に多く、新年度に向けての努力が必要である。
	窯業・土石製品	伊賀焼	今月も1月、2月に続き、伊賀焼伝統産業会館、伊賀・信楽古陶館とも入館者数、売上とも昨年を下回った。その大きな原因としては、降雪や寒さが考えられる。
	鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産量は、全国レベルでは若干減少傾向にあるが、東海地方の業界は、1月同様増加傾向にあった。自動車関連は横ばい、電器関連は若干の増加、その他製品は増加したものと減少したものとに分かれたのも先月と同じであった。半導体関連は、1月に比べ生産が間に合わない状況で今後増産の見通しである。人手不足は続いており、正規、非正規共募集を継続しているが応募は少ない。
一般機器	四日市	仕事の量は、増加しつつあるものの、収益性は相変わらず低迷傾向にある。理由は様々だが電気料金やエネルギー料金の高値止まり、人件費、人材不足などである。また、コストダウンの方策が見当たらない。	
電気機器	鳥羽	受発注の動きも期末に近づき一段落し、現状維持ができればいいが、先細り気配がある。	
輸送機器	鈴鹿	昨年の熊本地震の影響による操業停止や減産分の挽回のため、一部の車種では年度末に向けて増産が続いているが、4月以降は本来の設定台数に戻るようである。	
非製造業	小売業	青果	野菜：前半、人参・ジャガイモは不作で高値。キャベツも冷え込みでやや高い。キュウリ・ほうれん草・玉葱はお買い得。後半：全般的に入荷は不安定だが、消費も伸びていないため相場は大きく変わらない。果物：前半、みかんはピークを過ぎたが、在庫は豊富である。かんきつ類はデコポン・はるみ・いよかん・ハッサク等の種類が豊富で味も良い。リンゴは高値。後半、イチゴは入荷が増えてひな祭りの時期頃にはお値打ちになりそうである。はるみも入荷が増加し、味もよい。
		自転車	共同購入事業として、日本自転車軽自動車商協同組合連合会推薦車が2月20日迄売り出された。各組合員に通知するも、興味を示すことなく、一部のショップで少量の注文となった。2月上旬、春需に向けた人気商品が入荷困難になったことにより、都心部でこれから予約販売を始めた店はゆっくりとかまえていた関係上、大変な状況となっている。現在庫の商品しかなく、そのため、通学車価格帯として、5万円もしくは8万円程度の商品となり、他府県の問屋、販売会社、小売店の在庫を確認しながらの販売となっている。

非製造業	小売業	家電	2月に入り、3～4月春の新生活需要の獲得に向け力を入れている。家電店では、高齢者宅の安全点検活動により、買い替え促進活動を実施している。3月からはWBC開催を話題とした4Kテレビやレコーダー、寒さ対策としてエアコンの実需推進とあわせ、簡易リフォームの見込み客発掘に取り組んでいる。
		石油	2月の燃料油販売数量は、前年対比5～6%前後の減販であった。燃料油の中で灯油については、寒さの影響により、4～5%の増販、軽油についても、3%前後の増販であったが、ガソリンの販売数量は減販であった。後半に入り、原油価格が上昇したが、燃料油数量を維持するために販売価格の値上げが思うように出来なかったため、収益においては、大変厳しい状況であった。
	商店街	熊野	一昨年からスタートした空き店舗を活用したチャレンジショップ事業も2月末で現在の事業者も契約が終わり、新たな事業者募集が進められている。ただ、下旬からの募集に対して、現在応募は0件の状態である。起業する意欲のある人材をいかに掘り起こしていくかということも今後行政とのタイアップでやっていくことも必要と感じる。
	サービス業	旅館	先月の低調なペースが月初めより続いており、直前の予約についてもペースが上がらず、去年は「伊勢志摩サミット」の風評被害で落ち込んでいた前年同月と比べて少し良い程度であった。訪日外国人旅行者は、春節で中華圏から大挙来日しているが、県内ではFIT（個人旅行者）の姿が各地で見られた程度であり、サミットで得た知名度の向上を活かし、地域の魅力を発信して集客に努力する必要がある。
	建設業	建設	2月期に入り補正予算が施行されたことに伴い、対前年同月比で160%と大きく増加し、通年ペースで前年度並の受注高を確保できるところまで改善した。
		内装工事業	年度末に向けて、仕事量は増加傾向にあり、対前年比で、売上等増加となっており、このまま3月もプラスになると思われる。
水道工事業（四日市）		今月は、特に目立った動きが見られなかった。年度末が近づいたが、大幅に仕事量が増加するようなことはなく、受注量などもあまり変化はなかった。	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	
食料品	製麺	伊勢うどんPR活動に積極的に取り組んでいく。また、情報提供をお願いしたい。
繊維工業	衣料	加工賃の値上げを希望する。
一般機器	四日市	国の予算の中で、経済対策、特に中小企業対策に向けられている金額があまりにも少なすぎる。他国に援助するのであれば、もっと内需向けの対策も講じてほしい。
	伊勢	同一労働、同一賃金の動向が気になる。雇用形態が多様化しており、雇用確保も困難な状況が続いている中で、中小企業にとっての影響は大きい。セミナーや情報提供をお願いしたい。
サービス業	旅館	旅館ホテルのような装置産業にあっては、機器の更新が周期的に出てくる。新しい設備に替えれば省エネによる生産性の向上にもつながることでもあるため、3年前にあった省エネ補助金、助成金の復活を要望する。